

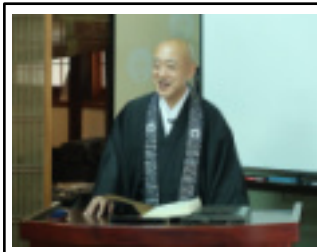
じゅこう

孟蘭盆会・門信徒総追悼法要 厳修

八月十五日、孟蘭盆会・門信徒総追悼法要をお勤め致しました。浄土真宗ではお盆の法要のことを歡喜会とも呼び習わしています。大切な方を亡くし、ご先祖を偲んでいく法要なのに、どうして歡び(喜び)の法要なのでしょう。それはご先祖への追善だけにとどまらず、別れていった大切な方を縁として、私自身が仏縁に遇わせたいただいた有難さ、また往生浄土の教えがあることの喜びを味わう法要だから歡喜会と表現されるのです。

第一条より「弥陀の誓願不思議にたすけられまゐらせ、往生をばとぐるなりと信じて念仏申さんとおもひたつところのおこるとき、すなはち摂取不捨の利益にあづけしめたまふなり。弥陀の本願には、老少・善惡のひとをえらばれず、ただ信心を要とすとしるべし。」をいただきました。

誕生と往生という言葉があります。誕生はいのちが生まれることを意味し、往生はいのちが亡くなることだと受け取られていることが多いです。けれど、本当は誕生の中にも、いのちが生まれると同時に、いつかは亡くなるということも含まれているのだと教えていただきました。そして、いのちが生まれたからには、いつかは必ず亡くなると分かっているにしても、それを当たり前とは受け取れない私の気持ちも間違いではないと示され、そんな私を認め受けとめ、必ず浄土へ迎え取り、仏と成らせると誓い働いてくださるのが阿弥陀如来という仏さまなのです。と聞かせていただきました。さらには、先に往生された方々は阿弥陀と同じ仏さまとなっておられ、姿形を変えて今ここに、残された私をまた導くために、そして支えてくださるために届いておられます。それが南無阿弥陀仏というお念仏なのです。とお取り次ぎいただきました。



浄土真宗のお念仏の教えは、必ず浄土往生させるという阿弥陀さまの願いの元に、ご信心をいただいた私が「安心して死んでいける」という味わいができます。もちろんそれは「安心して生きていける」という支えなのだと気づかされ、なんと有難い教えであつたとお念仏申すことであります。

※毎回「法話を収録」、YouTube「浄覚寺チャンネル」でお聴聞できるようにしておりますが、今回は機材の不調でノイズがひどく、掲載を断念しました。申し訳ありません。

第89号
(通算429号)

発行元
浄土真宗本願寺派
吉富山 浄覚寺
大阪市平野区
長吉長原3-1-10
06-6790-8350

浄覚寺ヨガ教室
・9月16日(水)
10時~11時半
・参加費500円

浄覚寺雅楽教室
・9月22日(火)
19時~20時半
・参加費1000円

浄覚寺ピアノ教室
・9月 金曜日開催
(月3回)

しかれば

南無の言は

帰命なり

帰命は

本願招喚の

勅命なり

親鸞聖人「教行信証行巻」



御文章に聞く(第82回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

当流勸化章(五帖第二十二通)
 されば、南無阿彌陀仏と申す体は、
 なれば、この信心というは、この南無
 なり、この信心というは、この南無
 阿彌陀仏のいわれを、あらわす
 がたなりといころうべきなり、され
 ば、われらがいまの他力の信心ひと
 つをとるによりて、極楽にやすくと
 生すべきこと、さらに疑いも
 なし、あら殊勝の阿彌陀如来の本願
 このありがたさの阿彌陀の御恩をば
 いかがして報じたてまつるべきぞな
 れば、ただねてもおきても、南無阿
 彌陀仏となえて、かの阿彌陀如来の
 阿彌陀仏となうるころは、いかに
 ぞなれば、阿彌陀如来の御たすけあ
 りつるありがたさとうとさよとお
 りて、それをよろこびもうすこ
 るなりと、おもふべきものなり、
 あなかしこあなかしこ

仏教語辞典



引く戸の建て付けが悪いと、引き元は元々、仏教の言葉で、いかに見ると、意味が、あつた。事、で、仏教の、違ふ。お互に見る、あつた。事、で、仏教の、違ふ。お互に見る、あつた。事、で、仏教の、違ふ。

ガタピシ

今回も御文章(蓮如上人からのお手紙)を味わっていきたいと思います。南無阿彌陀仏の六字には、他力信心の特色があらわされています。なぜなら「南無」とたのむから離れては、阿彌陀仏の本願のほたらき場所はないことをあらわしています。阿彌陀仏のすくいのはたらきを実現してくださっている証拠に他ならないことをあらわしているのです。「南無」とは阿彌陀仏の願いをそのまま受け取り、お任せする、という意味です。阿彌陀仏のほたらき場所、私の生きる場を除いてはないのです。それは、薬が薬局の棚の上では、そのほたらきができないことと同じです。薬は必ず病気の人の体の中に入らなくては、病気の血と離れることができない状態になつて、体の中をめぐってこそ、治療の効果があります。阿彌陀仏のほたらき場所、私の生きる場を除いてはないのです。それは、薬が薬局の棚の上では、そのほたらきができないことと同じです。薬は必ず病気の人の体の中に入らなくては、病気の血と離れることができない状態になつて、体の中をめぐってこそ、治療の効果があります。

『気になる仏教語辞典』
 著・麻田弘潤 誠文堂新光社
 仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

編集後記

今月も「じゅこう」をお届けいたします。
 八月の盂蘭盆会・門信徒総追悼法要にはたくさんの方のお参りをいただき、大切な時間を共有させていただきました。有難うございました。その時には間に合わなかったのですが、当山に「ガチャポン」の機械がやってきました。参拝記念品として浄覚寺キャラクターの缶バッジを作製しましたが、少しでも楽しくお渡しをしたいと思いい導入いたしました。どなたでも回していただけますので、ぜひお彼岸の法要にお参りなさってください。
 九月に入っても残暑が厳しいことです。お身体ご自愛いただきますように。
 (釋法道)



浄覚寺の公式LINEにぜひ登録ください。
 デジタルで「じゅこう」をお届けします。



行事案内

日時・九月二十三日(祝) 十四時より
 行事・秋季彼岸会
 場所・長原浄覚寺
 法話・鶯地清登先生(大阪)
 (なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)
 ぜひ皆さまご参詣ください

10月

十月十七日(土) 十四時・十九時
 永代経法要 法話 加藤真悟先生

